

# 日本のオリンピック招致に関する研究～名古屋オリンピック構想に着目して～

A study of attracting the Olympics in Japan ~ Focus on a plan of Nagoya Olympic Games~

1K04B149-9

東郷 大輔

指導教員

主査 友添秀則先生

副査 宮内孝知先生

## 【動機及び目的】

日本では現在、2016年に開催予定のオリンピックの候補地に東京都が立候補を考え、その準備を進められている。石原慎太郎東京都知事が先頭に立ち、東京オリンピック招致委員会が設立された。みんな「お祭りをやろう」とか「スポーツに心を打たれるから…」とか、オリンピックに素晴らしい夢を抱いているようである。

しかし、近代オリンピックにはその夢を打ち砕くような多くの問題が存在するだろう。ドーピング問題、商業主義化による金の問題、環境問題、テロの危険性、開催後の施設維持や負債の問題などである。

それでも、オリンピック招致には毎回世界の各国を代表するような大都市が、知名度向上や商業的な成功を目的に名乗りを上げてくる。

日本のオリンピック招致は、招致に成功した東京・札幌・長野以外に名古屋と大阪でも開催都市に立候補し、招致活動を行ったことがある。両都市とも残念ながらIOC総会での投票で他の候補に敗れ、招致は失敗に終わってしまった。特に名古屋市は、招致成功が確実と見られていたにもかかわらず最後の最後で失敗してしまったり、地域住民の反対運動が活発であった招致であった。

今回私はこの卒業研究を書く題材として、この名古屋でのオリンピック招致について取り上げ、考察することで、今後の日本のオリンピック招致に必要なものを考えたいと思う。

## 【方法】

本研究は、関連する文献の購読による文献研究により行うこととする。

## 【各章の概要】

### ・第1章

日本は2007(平成19)年現在までに1度、1964(昭和39)年に東京で夏季オリンピックを開催した。この大会は日本で唯一の夏季オリンピックということで、

多くの出版物や記録映像が残されており、よく知られている。しかし、本研究で取り上げる名古屋オリンピック構想については、実際には実現しなかったオリンピックということもあり、その実際どころか、構想自体あまり知られてはいない。

この第1章では、名古屋オリンピック構想について考えるために、まずはその招致活動の実際を追っていく。

### ・第2章

1988(昭和63)年の夏季オリンピック大会の招致は、最終的にはソウルに敗れて失敗ということになった。しかし、招致活動・票集めという政治的分野において失敗しただけで、名古屋オリンピック構想自体は素晴らしいものだったかという点、そこにもまた成功とは決め付けられないいくつかの問題が存在している。

この第2章では、この名古屋オリンピック構想に関わる問題の「招致の意義」、「施設開発」、「環境破壊」について検討していく。

### ・第3章

第2章での考察の結果、名古屋オリンピックの招致活動には様々な問題があった。これらの問題が生じた理由として、この招致活動の、そのほとんどが行政・財界を中心としたもので、地域住民の存在というものが招致活動のなかに組み込まれていなかったことが考えられる。

この第3章では、その招致活動における住民不在ということについて考えていく。

### ・結章

現在では招致に関する様々な問題の改善が行われてきたが、たとえ1980年代であっても現在であっても、招致する都市の住民の意見や意向を取り入れることが非常に重要なことであると考えられる。結章では、住民から受け入れられるオリンピック招致のあり方を、名古屋オリンピック構想の反省も踏まえて提言していく。